

2025.11.20 (木)
第20回例会
(通算3829回)

会長 荒井 剛
副会長 池田 一己
幹事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ツ輪ビル 2F
0154-24-0860 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
R1会長 フランチエスコ・アレッソ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 夜間例会「創立 89 周年にちなんで」(親睦活動委員会)

次週例会 講師例会「釧路元町てらこや活動の現況と意義」(プログラム委員会)

- ロータリーソング：我らの生業
- ソングリーダー：吉井 透君
- 会員数 106 名
- ビジター
- ゲスト

会長の時間 荒井 剛会長



皆さん、こんばんは。本日は『創立 89 周年にちなんで』ということです。会長になって初めて会長バッジを付けることになりました。

「これを無くしてはいけない」といろいろ言っていたので、自分の家の大事な所にしまったのですけども、「せっかくだから付けたほうがいい」という話があって、せっかくの機会が正に今日だなと思いましたので、89 周年にちなんでということで付けさせていただきました。89 周年なので、どんな話をしようかなと思いました。ただ、これは本当にくだらない話だと思って一蹴したのですが、弁護士なので「89」にちなんで「憲法 89 条」とか「民法 89 条」とか「刑法 89 条」とかを説明してもらっと面白くないなと思って、やはり 89 周年ということでロータリーのことを話そうと思いました。あとで説明があると思うのですが、釧路ロータリークラブは 1936 年 11 月 23 日に創立されました。同じ 1936 年に創立されたロータリークラブはうちと同じように 89 周年を迎えるはずです。どんなクラブがあったのだろうか調べてみました。

釧路ロータリークラブは、日本で 26 番目に誕生しました。なかなか細かく調べることができなかったのですけども、ある程度公式な資料で調べることができま

した。1936 年の同じ年に創立されたと分かったのが浜松ロータリークラブ、ここが 22 番目でした。チャーターメンバーは、浜松の場合は 20 人、当クラブは 30 人。その後、どういう歴史を辿ったかというと、今の浜松は 100 人、うち 100 ちょっと、ほとんど変わりません。ガバナーの数では、浜松ロータリークラブが 5 人輩出、釧路も 5 人が輩出されているということで、本当に似たクラブになっている所です。

浜松クラブは、そのエリアで第一人者というか、そのトップだと言われるクラブになっています。浜松ロータリークラブ設立の中心となったのが、今はヤマハ発動機とヤマハ楽器と別会社ですが、元々は日本楽器製造という会社です。その 3 代目の川上嘉市さんが設立の中心にありました。その方が東京ロータリークラブを創立された米山梅吉さんと友人関係だったので、米山さんの協力を得て、中心となって浜松ロータリークラブを設立されたという話になっています。いまのは日本ですが、国外ではどうなのだろうか。1936 年にどれくらいのロータリークラブが生まれたのか、結構な数があるのです。これも公式に分かることでぜひ紹介したい所があります。スバルロータリークラブ、「スバル」というだけでは分からないです。地区は 9920 地区、そこからいろいろ始まったと言われているのですけども、スバルは太平洋に浮かんでいるフィジーです。9920 地区というのは、ニュージーランドのオークランドの半分とアメリカ領サモア、クック諸島、フィジー、フランス領ポリネシア、キリバス、トンガと、この辺の全てのエリアを含んでいます。ロー

タリーの中でも最大級の海洋地区と言われています。フィジーのスバがその地域で最初に設立されたクラブ。そこからバーッと広がっていって、最終的に 51 のロータリークラブと 7 つのロータリークラブがあると言われています。89 周年にちなんで私もいろいろ調べていくことによって、ロータリーの歴史とか、その地域とか、海外のロータリーはどのような思いで作られたのか、昔の人の思いを感じ取りながら、今回勉強させていただきました。

本日は 89 周年を迎える、また来年 90 周年を迎える、そして 100 年を迎えるにあたりますので、ぜひ皆さんと一緒に釧路クラブは当時どういう思いで設立されて、どのようにして今日まで流れてきて、また、未来へどのように向かっていくのかを皆さんと楽しい時間を過ごせればと思っております。本日もよろしくお願ひ申し上げます。

幹事報告 横田 英喜幹事

幹事報告をさせていただきます。本日、私の付けていたバッジは会長と同じ幹事バッジと言いたかったのですけれども、本当に無くすタイプの人間ですので、普通のバッジを付けて家に大切に保管しておりますので、よろしくお願ひいたします。

11 月は財団月間ということで、ロータリー財団から 2 つの連絡が来ておりますので、紹介させていただきます。ポール・ハリス・ソサエティへの入会のご案内、皆さん、ポール・ハリス・ソサエティ、分かりますか。ロータリー財団に対して年次基金、ポリオプラスなどに年間 1000 ドルを毎年寄付することを約束することで、ポール・ハリス・ソサエティに入会できることになります。それをロータリー財団としては募集しております。ソサエティの会員になられる方はロータリーの方の 3 % で、年次基金として毎年寄付する基金の内の年間の寄付の 45 % の方が、ポール・ハリス・ソサエティで構成されています。ロータリー財団としては、貴重な財源のひとつとなりますので、ぜひ目指していただければと思います。これには期限がありませんので、いつでも言っていただければ手続きのご紹介をさせていただきます。年間 1000 ドル、今のレートでいうと 154,000 円になりますので、よろしくお願ひいたします。

また、「そこはちょっと大きいぞ」という方には、もう 1 つの案内として、ポリオプラス・ソサエティ。毎年 100 ドルの認証、ポリオプラスに 100 ドルを寄付することによって、ポリオプラス・ソサエティに入会ができます、という案内も来ていますので、よろしくお願ひいたします。

■ 本日のプログラム ■
夜間例会「創立 89 周年にちなんで」

親睦活動委員会 小林 祐介君



皆さん、こんばんは。親睦活動委員会でございます。今日の司会を務めます東京海上の小林でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

す。本日は『創立 89 周年にちなんで』ということで、この歴史と伝統を長く伝えております釧路ロータリークラブの皆さんの中から 15 年から 20 年、入会から経過をしてらっしゃる皆さんにさまざまな思い出を語っていただきながら、楽しく過ごしてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、先ほど会長のご挨拶もございましたけれども、いまから 89 年前 1936 年の 11 月 23 日に当時 40 歳内外の若いチャーターメンバーを中心に、およそ 30 名を発起人として釧路ロータリークラブが創立をされております。道内では 7 番目、国内では 26 番目、世界で 4092 番目に創立されまして、その由緒正しき歴史と伝統の重み、それから輝かしい活動の軌跡が 89 年間脈々と今日に紡がれております。本日の例会では、皆さんの中からスピーチを通して、私のような若いメンバーもありますので、先輩のいろんな思い出話を勉強にさせていただいて、この長い歴史をみんなで味わいたいなと思っております。

それではさっそくですけれども、冒頭の開会の挨拶を賜りたいと思います。

釧路ロータリークラブの開会の挨拶は、昭和 63 年 1 月 28 日ご入会で、在籍 37 年目、2022—2023 会長、滝越康雄パスト会長より賜りたいと思います。

滝越パスト会長、どうぞよろしくお願ひいたします。

開会の挨拶

滝越 康雄パスト会長



皆さん、こんばんは。昨日、私は 11 時にあるお寺さんに仕事に伺いました。その時、プリントアウトしているのです。よく見たら、お寺さんらしくて法事の何回忌、何回忌のプリントです。それを見てふいに思ったのが「明日はロータリーの周年だな」と。なにか、結びつけるのは極端かもしれませんけれども、仏さんでいう法事とロータリーの周年が過去を遡ることで一致するのかと不思議な思いに駆られました。そんな思いでいるところに、中島親睦委員長から突然の電話で、「明日、登壇者少ないから手伝ってくれ」

という申し入れがあったのです。

中島委員長は、これを話せということかなということで、周年の位置というのは過去に思いを馳せるという意味で、共通する部分があると思いまして話す気になりました。

皆さんのロータリーの思い出は過去にあると思いますけども、昨日、ふと思つて歴代会長のリスト見たのです。この名簿を見たら 89 年という数字よりも歴史を感じます。

私の位置はど真ん中、在籍年数からいいたら 42% を見てきているのです。長かったかといつたら、中間でサボったりもして、そんなに長いとは感じてはいません。何回も退会しようと思ったけど、退会っていうことは陰りを持って去る人みたいでマイナスに見えるのが非常に多いのです。「これは意地でもいないといけないな」という思いになり、びっしり活動したわけではなく、要点・要所・要所で活動をしてまいりました。皆さんは新入会員の時の年度の会長さんを思い出すと思いますけど、今日は非常に新鮮になるいい時期だと思います。いつまでも初心を忘れないで、と思います。100 周年がいざれ来るでしょう、その 100 周年のためのリハーサルとして 90 周年があり、今日は 90 周年のリハーサルのための 89 周年という位置付けで考えていただきたいと思います。

これから極めて忙しくなりますので気合を入れる例会です。この繁忙さを乗り切るために気合を入れる例会で、皆さんを元気づけて頑張ってほしいと思います。

親睦活動委員会 小林 祐介君

滝越パスト会長、ありがとうございました。

続いて、乾杯に移りたいと思います。乾杯のご発声は、在籍 41 年目、滝越パスト会長よりも更に 4 年先輩、2010—2011 年度の会長、尾越弘典パスト会長より賜りたいと思います。

尾越パスト会長、よろしくお願ひいたします。

乾杯のご発声

尾越 弘典パスト会長



思ったのですが、いま司会者からご説明があったように、私は昭和 59 年に入会しました。私は何もしないでずっと来て、もう 40 数年が経ったのですけども、釧路クラブのメンバーは本当に素晴らしい方たちがたくさんおりまして、今日は 89 周年ですが、来年は

90 周年、10 年後には 100 周年ということで、この素晴らしいメンバーがいて、この釧路ロータリークラブは多分歴史に重みができる素晴らしい周年ができるのではないかと思っています。ここに素晴らしい方たちがおりますので、今日はこれから周年に向けて、これから楽しい何をしようかとか、いろんなことを考えると思うのですが、素晴らしい方たちが多いです。もう 90 周年は始まっているようです。私も小さな役ですけども当りました。荒井会長がガバナーにもなられますし、何とか皆さまに恥じないように頑張ろうと思っています。素晴らしいメンバーとともに新しい釧路のロータリークラブの歴史を作っていきましょう。

それでは 乾杯します。

(乾杯)

ありがとうございました。

親睦活動委員会 小林 祐介君

それでは本日のプログラム『創立 89 周年にちなんで』ということで、本日は在籍 16 年目から在籍 20 年の諸先輩の皆さまから 5 名の皆さまスピーチをいただきまして、皆さんで思いをひとつにしてまいりたいと思います。

それでは、お 1 人目のスピーチをお願いしたいと存じます。はじめは入会在籍 16 年目、2008 年にご入会されました脇弘幸君、お願ひいたします。

スピーチ脇 弘幸パスト会長

皆さん、こんばんは。今回、中島委員長から「中堅メンバーによる何名かのスピーチだから」という連絡をもらつて、「中堅メンバーつ



て何だ」と聞いたら、「活動計画書に入会順の名簿が付いています。その、5 ページから 6 ページが中堅メンバーだ」と、なんか意味が分からぬなと思いながら、見てみたのです。6 ページ目の最後に私が載っていたのです。ギリギリ滑り込みで中堅メンバーに認められたと。言ってみれば若手、小僧寄りの中堅メンバーです。5 ページの最初が天方パスト会長。おお、すごいな、これは重鎮寄りの中堅メンバーだ。これはずいぶん差がありますねと感じながら、まあ、分かりました、少しお話させていただきます、ということで登壇をさせていただきました。

「89 周年にちなんで」ということですけれど 89 周年は特に何もないで、周年のからみでは、前回の 80 周年の時の私は木下会長の下で副会長をやっておりました。その中で、「実行委員会をどうする」「式典・

祝賀会をどうする」「記念事業をどうする」と、予定者の段階から木下会長とずいぶん話をして、そして尾越実行委員長が決まって実行委員会がスタートしたのです。

尾越実行委員長から連絡をいただきました。「脇ちゃん、副会長は暇だろう、実行委員会の副幹事に入ってなんとかしてくれ」ということで副幹事に入るのです。いろいろな準備とか運営に関わっていたのです。

おかげさまで、80周年の時は実行委員会のしっかりした準備、頑張りで300名を超える参加者の中で式典・祝賀会が盛大に行われました。みんなの素晴らしい活動の成果からできたのだろうと思ってみていきました。記念事業についても、数学検定、タイなどでの国際奉仕、講演会もありました。台北中央ロータリーの姉妹クラブの締結もありました。その中で、台北中央との姉妹クラブについて少しだけ話します。

14～15年いる人はみんな知っているのですけれど、80周年以降に入会したメンバーはもう4割になるのです。台北中央との姉妹クラブ締結も80周年の時に出てきた話ではなくて、これは2010年からの交流があって、尾越会長年度の時に初めて台北中央からのご一行が釧路に来たのです。それから交流を重ねているのです。それから3年後くらいの2013年、吉田秀俊さんが会長の時に「台北中央との関係をどうする。どういう形で進めるのか」とクラブ内でいろいろな議論がありました。その中で出た意見をしっかり踏まえて、2013年に台北中央との話し合い時間を持ったのです。

その時にいたのが、台北中央のプロフェッサー会長、ヘンリーパストガバナーとシーハラさんだったかな。釧路ロータリーは、小船井パストガバナーと吉田会長と、その時幹事をやっていたので私もいました。その時にいろいろ話して、釧路クラブが80周年の時に姉妹クラブの締結をしよう、となったのです。これが2013年なのです。その話を2014、2015とつないで、2016年に姉妹クラブの締結をするのです。この流れをクラブの中で、一人一人の意見をしっかり聞いて、その意見を踏まえて方向性をしっかり決めて行ったのです。民主的な進め方だったのです。釧路ロータリークラブは一人一人を大切にするクラブですし、その存在、意見をしっかり大切にするクラブなんだなあ、とその時にとっても感じました。

違う世界だと、政治の世界ではキングメーカーがいる、そんなことよくあるじゃないですか。右と言ったら右、左と言ったら左。釧路クラブではそういうような形を望まない、そういう人たちを作らないという、そういう形を作らせないという釧路ロータリークラブにある価値観がずっと引き継がれているのです。そういうのを含んで、メンバー一人一人が尊重されて居心地のいいクラブ、楽しいクラブにつながり、それを感じる

クラブだろうと思います。

このように、クラブのみんなが気持ちの中に持っている価値観というものをしっかりと引き継ぎ、つなぎながらこれから90年、100年に向かってクラブを大事に、そしてメンバーを大切にして楽しいクラブであり続けられるように進むことがいいのかなと思います。全然、楽しくない話でしたけれども、ここからたぶん重鎮寄りの中堅メンバーがどんどん出てきますから、楽しい話をきっとすると思いますので、面白話はこの後に期待をして、私のスピーチはこれで終わりとさせていただきます。ありがとうございました。

スピーチ 高橋 直人パスト会長



えー、脇パスト会長の後にはホントに話したいのですよ。饒舌だから。自分は自分がやったことをくだらなく話します。こんなのが見なくていいから、飲んでいいです。自分が入会したのは2008年5月29日。白幡さんが会長だったのです。自分が元々、別の会合に入っていて、そこで西村さんと「ロータリーに入れ」と言われて、逆らえないので「分かりました」となって、「7月からでいいからな」と言われていたので、自分は7月に入りと思っていたのです。

突然、木下さんが会社に来て「ロータリーに入ると聞いたのだけれど」と。「7月になります」と言ったら「いや、いま入って。いま入るのも7月に入るのも同じでしょ」と言われ、「分かりました」となって白幡さんの時の5月29日に入会しました。

すぐ親睦に入って、6月の最終例会でレスリングがあるのですよ。向こうで、覆面レスラーを呼んできてレスリングをやるのです。初めて見たので、ロータリーってすごい会合だなと思いました。

次の年も親睦をやることになって、その時の親睦の委員長は某寿司屋さんだったのです。某寿司屋さんはけっこう人を使うのが上手なのです。1年しか経っていないので1か月に1回、いろいろな所に買い出し。その時の夜例会には必ずいろいろな景品を出していたのです。ロータリーってすごくお金があるのだ、と思って。マックの食券とか六花亭さんが会員だったのでそこに買いに行ったり、縫いぐるみを買ったり、何を買ったり。まあ、よく使われました。

次に配属になったのは国際奉仕の青少年の交換委員会、今はいのすけれど。今でもはっきり名前を覚えているのは、パッチョ・ヒルチェンという方が留学生で来て、お迎えに行きました。彼はすごく根暗な方で、日本語あまり覚えません。全然、交流ができない

い人だったのです。札幌の大会にJRの特急で連れて行った時にも、日本語も分からなかったから3時間50分がずっと無言のまま、辛かったです。札幌の地下のライオン堂で、「何を食べる」とも聞けないのだからメニューを見せて、「これ」と言ったらそれを食べさせてあげて、大会会場に連れて行って、自分は離れて、また迎えに行って連れて帰って来たのです。普通であれば、1年間いるのですが会話が少なくて、ホストファミリーの方もあまり良くなくて半年でホームシックになって帰ってしまいました。

尾越会長の時に副幹事になりました。皆さんの言うとおりスムーズな形でいろいろなことを体験しながら、理事をやって、杉村パスト会長が言ったように4～5年樂をすると、去年の会長になってしまったということがありますので、入会して今はちょっと樂をしているなと思う方にはちゃんと大きな仕事が来るので待っていていただければと思います。

90周年は脇実行委員長が組織をまとめてやっていただけるので、皆さまは90周年に向けてちゃんと協力していただけますように。その後、西村ガバナー補佐のIMもありますのでやらなければいけない。その時はすごく忙しいですから皆さん、ご協力をよろしくお願いします、とお伝えして私の話を終わります。

スピーチ 杉村 荘平パスト会長



皆さん、こんばんは。この辺になると中堅の中でも、限りなく重鎮に近いほうの、先ほどのイメージとは違うくらいの感じになってくるか

と思います。

2007年1月に入会させていただきました。当時はパシフィックホテルが例会場でした。当時の重鎮を思い起こしていたら、白崎さんのお父さん、梁瀬さんのお父さん、栗林さんのお父さん、山下書店さんの山下将軍、がおりましたね。

ホントにあつという間の18年でした。当時を思い出して2つ3つをお話させていただきます。

2007年1月に入らせていただきましたが、その当時は僕と同じくらいの年代が全くいなくて、いたとすれば、完全スリープ中の天方さん、全く見たことがなかったですね。あと、甲賀さんと郡さんと木下さん、さっき出た中村幸史君、そのくらいしかいなくて寂しかったくらいです。そんな中でなんとか馴染もうとしていて。まだ半年も経っていない、誰にも何も教えてもらえてないときに、確かに吉田秀俊さんだと思いますが「来年、IMがあって司会に決まったから、よろしく」と。なんだ、それは。IMのIの字も全く分からぬ

中で、「自分で台本を書いてね」みたいに言われて、この団体はひどい団体だな、辞めてやろうかなとホントに思いましたね。でも、自分で一生懸命に石田さんとかに聞き回って、「IMって何ですか」「どういう台本を作ったらいいですか」「司会進行はどうするのですか」から始まった記憶があります。その少し後に、黒田君が入って来て少し楽になった記憶があります。

その当時の入ったころの思い出としては、エレベータに行く途中に椅子がありますが、その椅子に五明さんとか石田さんが座りながら煙草をプカーっと吸っているのです。また、石田さんが洋モクを吸っていて、この匂いがまたすごいのですよ。まー、怖かったです。さらわれるかと思いました。そのくらいの貫禄で、受付でニコニコはしているのですが怖かったです。

当時の石田さんは60歳くらいですから、ちょうど今の僕と同じくらいの年代ですね。貫禄と言い、立ち振る舞いと言い、当時の僕が60歳くらいにならそうなれるのかなと思ったら全くなれていない、足元にも及ばないなと思いながら少しずつやってきたのでございます。

もうひとつの思い出は、重鎮の山下将軍がこの席に座っていたのですが、少し足取りも悪くなってきたころでしたが、夜例会が終わったあとに、五明さんは酒を飲まないので山下将軍にホントに寄り添って車を運転して決まった二次会のスナックに行くのです。

20人から30人が来ます。工藤さんも歌っていましたね。工藤さんは、これまたオンチなのです。山下将軍はそこで軍歌を歌いながら皆さんとやっていました。五明さんは60歳くらいだと思いますが、「若い世代と古い世代をつなぐ中堅として、こういうことをやらないとダメだぞ。俺の背中を見ておけよ」と、たぶん訴えていたのだと今更ながら思っているところです。そんな思い出を思い起こしております。

これは、会長挨拶でも話しているのですが、釧路クラブは本当にいいクラブだなと思っております。何かというと、若い方もおりますが、僕の入会5～6年のころに「なんだ、この緩いクラブは。もうちょっとやれよ」と。クラブとしてもう少し活動しないのか、寄付だけをしていればいいのか、と思っていました。当時は矢澤さんという重鎮がいて、僕が大好きな人だったのですが、二次会の後に矢澤さんに議論を吹っ掛けたことがあります。「釧路クラブはもう少しビジネスとやらないのですか」と話したことがあります。入会して5～6年目のころだったと思います。

その時に矢澤さんが「杉村、なあ、そんなに青筋立てて、大上段から構えて、釧路クラブがどうこうせよと言うのは必要かな。そうではなくて、釧路クラブには100人ものメンバーがいて、それぞれが街づくりをやっている。それがPTA活動やっている。それぞれが社業を頑張っている。それでいいのではない

か。例会でその人たちの話を聞いたうえで、自分の家庭に持ち帰る、自分の会社に持ち帰る、それでいいのではないか。と俺は思っているよ」と言っていたので、そこで、なるほどと思った次第でした。それで、なるほど、そういうことかと僕にも道が開けた感じがありました。

その後、脇会長年度で副会長をやるときに、P E T S で第一分科会があって、僕が好きだったパスト会長のなるせさん、ほそかわさんが分科会におりました。その二人がはっきりと「ロータリーの第一義は例会に出て、みんなと顔を合わせて、心を磨くことだ。心を豊かにすることなのだ。寄付とか奉仕というは第二義の問題で、そこから出てきた気持ちで奉仕とか寄付をするものなのだ」と言われました。

これで、矢澤さんから言われたことが確信に変わりました。それは 13 年目でしたかね。不肖、杉村がなんとなく釧路クラブはこれでいいのだ、と。それであれば、釧路クラブは世界の中でも、ど真ん中を行っているクラブではないかと思えて、釧路クラブを好きになって、自信を持ったところでございました。

そんなことがあって、今やっと 18 年目になっていますが、旅部だ、増強は自分では少し頑張っているつもりでおりますが、釧路クラブをみんなが楽しめるようにこれからも頑張って行きたいなと思っております。

スピーチ 甲賀 伸彦パスト幹事



89 周年ということで、中島さんから「中堅の中堅として話して」と言われたので。脇さんは中堅の一番下らしいのですけれど、僕は中堅の中堅としてお話をさせていただきたいと思います。

2011—2012 年度、五明年度の幹事をやらせていただきました。その時の会長が五明さん、副会長が木下さん、私が幹事ということです。

ロータリーというは次々年度を指名するということでやられていますが、2013—2014 年度は五明さんが指名した吉田秀俊さん年度で、脇さんが幹事をやられていたのです。その吉田年度では副会長さんが決まっていたのですが、3 月か 4 月に急遽、副会長が退会することになりました、当時の参久さんで夜間例会の後の二次会で飲んでいたのです。そうしたら、脇さんの所に吉田会長と行ったら、前年度の幹事だったものですから「脇さん、頑張ってくださいね」と言ったら、「何！ 頑張れとはどういうことだ」と脇さんが怖いのです。副会長がいなくなるということを知らなかつたので、聞いたら「副会長がいない。それでお前

を考えている」と言わされたのです。当然、五明さんが指名した吉田さん、そして吉田さんが指名した脇さんですから、五明さんの所に行ったら「俺が指名したので、お前が副会長をやってくれないか」ということで、結局、やることになったのですが。そのような年度ことが大切なんだなあと思いました。

会長や社長は「President」なのです。副会長は「Vice President」、副社長なのです。毛色は一緒ですよね。幹事というのは「Secretary」、秘書なのです。ここに座って 3 回目くらいの時に秘書と書いていたので、グーグル先生に「秘書とは」と聞いてみたら、「秘書とは個人的にサポートする人のことを秘書と言う」と。組織をサポートするのではなくて、個人的なサポート。じゃ、僕は五明会長をサポートする役割なのだと思います。今日、今まで話した方は皆さんが会長の経験者ばかりなのです。最後にしゃべる方も会長で、僕は幹事と副会長しか経験しておりません。今後この中で、いきなり会長にはなりませんので、幹事とはという目線でお話をさせていただきたいと思っております。これから幹事になる方がいると思いますが、幹事になる時にパスト幹事会があります。パスト会長会もあるのですが、パスト会長会は決められた会でして、かつてパスト幹事会もあったのですが、それは、みんなでお金を出し合ってやっていたのです。五明年度の時に、五明さんも幹事をやられていましたから、「パスト幹事会は公のものです。自分のお金を出してやるのはおかしい」と言わせておりました。「お前の時からは、組織としてのパスト幹事会を作れ」と言われて、ロータリーでお金を出していただくようになりました。ちなみに今、幹事会にいても会長に上がっていくので、どんどんパスト幹事会から外れていくのです。一番古い方が佐藤茂良さん、パスト幹事会の会長です。次に古いのが川本さんでパスト幹事会の副会長。僕が三番目に古くてパスト幹事会の幹事をまだやっております。茂良さんのお店で必ずやらせていただくのですが、食い切れないくらいの料理を出していただいて、スナックの『めぐり逢い』に行くとワインがガンガン出てきて、そこで次の幹事の方に文書では伝えることができないお話を伝えています。いわゆる口頭での伝達事項ですね。五明年度のとき、五明さんに怒られずにやってきていました。当時は幹事だったのでよく舟木さんの所に行つたのです。「幹事はどういうことに気を付ければいいですか」と聞いたら、「会長に恥をかかせないことだ」と教えていただきました。必ずコーヒーをいただきました。『舟木コーヒー』を販売もされている所で、皆さんも行ってください。美味しいコーヒーを入れてくれます。それで、最終例会の時のキャンドルサービスで、今日もそこにあるのですが、あのサーバーの横にサッポロビールのシールが貼ってあるのです。それを五明さんが見てしまった訳です。そし

たら、「うちの会員はサントリーさんだ。サーバーなのでしょうがないので隠すとか、お前の配慮ができるのか」と最終日に怒られてしまいました。

そういう意味で、幹事って、会長に恥をかかせてはいけないのだと思った次第です。

幹事としてやることが何か分からなかったので、いろいろな方に聞いたら『川本ファイル』があると聞いたので、川本さんの所を伺ったのです。すると「俺、作った」と言ったのですが、それ、どこかの幹事で消えているのです。川本さんに聞いたら、大山さんがいたころにワープロからパソコンに移行する時で、シャープの書院で作っていたときに大山さんが足を骨折して、「大山さんはいない、書院は使えないで苦労した」と聞きました。どこでなくなったのかは、いまだに不明です。五明さんはそのようなことをご存じでした。実は、議事録もなかったのです。勘と経験でかつてのことをやっていたので「議事録を作りなさい」と指令を受けました。その時からパソコンを持ち込んで議事録を作るようになって、それが今もつながっているのではないかと思っております。

あと、先輩の幹事に言われたことは、「予算は絶対にはみ出さない。恥だ」と。僕が幹事をやった以降はずーっと予算内で達成されているということで非常に良かったと思ってございます。必ずこの中から次の幹事が出てくると思いますので、参考になるかどうか分かりませんけれど、参考にしていただきたいと思います。

五明年度の時は 2011 年、14 年前でしたので 75 周年ということで何をやったかというと、釧路クラブは転勤族の方が多くおられますので、転勤族の方を呼び戻して 75 周年を行った記憶がございます。また、どこかでこれをやっていたらいいのではないかと思います。せっかくです、話すだけでは面白くございませんので、当時のことを調べようと思ったらホームページのアーカイブスがすごいのです。いろいろなことが載っていて、五明年度もあるので見てみると、五明さんがこういう感じで、清水パストガバナーの話とか、どなたかが受賞したのかな、こんなことがありました。吉田年度も調べようと思ったのです。すると、当時は最先端のことをやっておりました。アドビのフラッシュを使っていて、いまは「フラッシュのサポートを終了しました」となっていて見られないのです。格好いいのですが中身がない状態になっていますので、脇年度の情報をテキストに起こしてもらって変えていただきたいと思っています。

せっかくなので、これは 2011—2012 年度のキャビネットです。五明会長、木下副会長、僕はこの時は髪があったのです。前田さん、尚彦ちゃんです。ホントに当時は髪があったのです。これは、キャンドルパーティです。五明さんに相談したのですが、キャンドルパーティで髪の話になっていて、「例会は普通にひな

鳥みたいで髪のある状態で出て、キャンドルパーティでは髪の毛を剃ったら。内容は俺が考えるから」と言われて、五明さんは何をしたかというと、「子連れ狼をやろう」となって、子連れ狼の子どもも剥げています。「切られる時に俺がお前のカツラをずらすからホントのハゲをやれ」と言うのです。キャッスルホテルには会員の打矢さんの美容室がありましたのでバリカンで切ってもらい散切り頭です。後ろには多少あったのですがなくなっちゃって、ひどいですよ。横田さんも参考にしてください。自分もこうやって、五明さんです。僕も若かったなーと思って。

これは子連れ狼の悪い人、切る役の人・邵龍珍さんです。ここでニヤニヤしているのは樋口さんです。子連れ狼の乳母車がなかったので、僕が台車で五明さんに運ばれて、刀の代わりにキャンドルを持って行いました。カツラをかぶっていますけど中はツルツルしております。青田さんもおりますね。邵さんが「わー」と攻めて来るので戦うのです。

「会長の晴れ舞台ですが、たまには幹事にもスポットライトを当ててもらっていいですか」ということで、その裏で待っていました。やっぱり光るのです。後光が差しているみたいな感じです。同じような方の席にも寄り添うことで親睦を深められたなと思います。

キャッスルホテルの反保さんです。

これは外すのを忘れたのですよ。ちなみに、この靴はホントにプロレスラーから借りた本物です。ありがたいスリーショットで、今でも大事だと思っています。終わった後でしょうか、谷村新司のマネをすると言ってセロテープをここに付けています。すごいですね確かにアリスを歌っていたはずです。本当に五明さんの幹事で良かったなと思います。

「今後、幹事をやる方は、個人的に会長・プレジデントを支えて行くのだ」をもちまして、私からの創立 89 周年のお話とさせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

スピーチ 天方 智順パスト会長



こんばんは。5 ページ目の天方です。中島委員長から「5ページ目」と言われて、なんのことか分からなくて。脇君が話してくれて、

そのとおりです。

気が付けば 20 年が済んでいたのだなと思います。2005 年の 1 月に入会したはずです。40 歳までの団体を卒業してすぐ、有無を言わさずこんなふうにしてロータリーに入れられたのを覚えてています。杉村君が言いました 3 年間くらい、ホントに寝ていました。例

会にもいろんな事業にも行つていませんでした。ホントに申し訳ございませんでした。当時の会長さん、皆さんに申しあげたいと思います。

でも、その中で懐が深いなと思うのが五明さんとかが「お前、メンバーだったよな」と言うと「はい」と。あとは亡くなった矢澤さんとかがこのようなアクションで「天方君、君は来ないけどクラブに愛情はあるよなあ」みたいなことを言われて、「はい、もちろんあります」と。出なきやいけないのだが、何よりも亡くなつた父も入つていたので顔に泥を塗るわけにもいかないと思い始めて、出るようになつて約20年です。田中会長の時に副会長をやらせていただいて、この時も五明さんはずるいのです。田中さんがエレクトになつて、副会長・幹事を決めていないという話になつたのです。五明さんから電話がかかってきて、「田中さんは控えめの方だから、幹事は黒田にやってほしいようだ。仕事上の付き合いがあまりにも太いから困つていて。共に行って黒田を口説いてくれないかないか」と。「分かりました」と言って、「田中さんがホントはお前に頼みたいらしいよ」と黒田君を口説いて、「もちろん、喜んでやります」と黒田君が快諾をしてくれました。田中さんから電話があつて、「天ちゃん、ありがとうございます。黒田が幹事をやってくれる。天ちゃんも副会長をやってくれるんだ」と。「僕はそれを聞いていません」とやって、そうやって副会長になりました。ホントにおつかない組織だなと思いました。でも、ホントにやってよかったです。

89周年、前にも言ったことがあるのですが、ロータリーって会社みたいかな。よく思うのは船かなと思うのです。ロータリー号、ロータリーマー、どういう名称になるか分かりませんが、皆さんが乗組員なのです。私が20年目の乗組員で、転勤族の方では2年3年で下船される方もおられます。ずっと乗組員でいられるのも幸せなことなのではないのかなと思います。毎年、船長が代わるのがいいことです。毎年、単年度の積み重ねですから、新しい会長、新しい航海長がいてやって行くのがすごくいいことなのではないかと思います。たまに船長より偉い人がいる時があるのです。分かりますか。私が会長の時に吉田潤司さんがガバナーで、船長より偉い方がいる時があるのですよ。やりやすいと言うか、やりにくいと言うか、いま考えたら甘やかされていたかなと思います。荒井さん、その時の船長は慎重に選んだほうがいいですよ。来年は90年。70周年、80周年、90周年と経験できることは本当にありがたいことです。

メンバーであった父がいまの私の歳、61歳で亡くなつてゐるのです。それを考えると、お父さんが早死にされた大先輩の話を聞くと、「親父が亡くなつた年齢になつた時には、俺はプレッシャーだったんだ」と。業界の先輩とか、島本幸一さんとかお父さんが若死にさ

れた方の話を聞くたびにすごいプレッシャーだったのですけれど、その年、61歳になつて、あと2か月で62歳になりますけど、こうして頑張つてこられるのも皆さんのおかげだと思います。

来年は90周年です。90周年もあって100周年まで元気で乗組員でいたいと思っております。唯一気がかりなのは、あと10年くらい優秀な方が会長をやられると思います。皆さんは素晴らしいと思われますけれど、横田君がもしかしたらやられるのかなと思うと、それだけが不安でございます。でも、きっとやってくれると思います。どなたがやっても素晴らしい年度になるのではないかと思います。

今までの私の20年、「ごめんなさい」と「ありがとう」だけを分かっていただきたく思つてこの話をしました。来年以降もいい乗組員でいようと思います。ご清聴、ありがとうございました。

中締めのご挨拶

西村 智久パスト会長



締めですのでグダグダものは申しません。私はJCを卒業した時に、当時の綿貫市長と小船井さんに呼ばれてロータリーに入りました。

当時のわれわれの業界では市長の言つことには誰も断れませんので、そのような形で25年目に入つております。

いろいろ話したいエピソードはあります、今日はあっさりと締めたいと思います。

本日、89周年がこの会で終わるわけで、90周年に向けてのカウントダウンが始まった気持ちであります。90周年には脇実行委員長が決まつております。それに向けて、ついでにその後にわれわれのIMも控えております。その後に荒井年度もあります。なにせ目白押しでこのように事業が詰まつておりますので、ホントにいい機会であります。皆さんが手を取り合つてそれぞれが成長するチャンスだと思います。

「90周年に向けて」とシュプレヒコールを上げますのでお付き合いいただきたいと思います。

「働いて、働いて、働きまくつて90周年に向かって頑張るぞ」と僕が言いますので「オー」で応えていただきたいと思います。

(工藤次年度のために働いて、働いて、働き尽くして、頑張るぞ)

(オー)